

2022 年 1 月 31 日

2021 年度 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
課題研究

自然分娩・無痛分娩を選択する女性への
意思決定エイドの更新と妥当性の検討

Updated of Decision Aid Enabling Women to Choose between
No Analgesia or Epidural Analgesia during Labor, and Confirmation of Validity.

20MW002
荒引由美子

要旨

I. 研究目的

本研究は、平安名(2019)が作成した自然分娩と無痛分娩に関する意思決定エイド(以下、初版エイド)の情報更新と情報の追加を行うこととした。よって、第2版エイド試作版の表面妥当性と内容適切性を検討することを目的とする。

II. 方法

研究デザインは、記述的研究である。はじめに、2021年5月31日までの期間で文献検索を行い、初版エイドに記載されている情報更新(器械分娩のデータ)と、自然分娩と無痛分娩に関する母児のアウトカムについて新たな情報(帝王切開術、分娩時の出血量、マタニティブルーズ、産後うつ、ボンディング障害、授乳への影響、アプガースコア、NICUへの入院、自閉スペクトラム症)を追加して第2版エイド試作版を作成した。次に、産婦人科医師と無痛分娩の実施経験のある麻酔科医師、助産師を対象に、表面妥当性と内容適切性について質問紙にて回答を得た。質問紙の回答で得られた自由記載は、2名の研究者でディスカッションし、類似性のある内容ごとにカテゴリを抽出してデータを解析した。最後に、質問紙調査で得られた意見を検討し、調整を行って第2版エイド完成版を作成し、意思決定エイドの国際基準項目 IPDASi(Version4.0)と比較して基準を満たしているか評価を行った。本研究は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(21-A055)。

III. 結果

研究協力者は医師2名と助産師3名で、合計5名のデータが得られた。第2版エイド試作版(A4版,全44ページ)について、表面妥当性の評価項目である体裁とわかりやすさは概ね肯定的な回答が得られた。また、第2版エイド試作版の内容や内容適切性に関する具体的な意見は38件あり、《文章の追加・修正》、《表現の統一》、《説明・情報がほしい》、《エビデンス不足》、《ミスリードする可能性》、《疑問》、《構成》、《エイドの活用》の8つのカテゴリに分類された。これらの意見を検討し、内容を調整しながら修正と加筆を行い、第2版エイド完成版を作成し、IPDASi(Version4.0)の項目と比較した結果、資格基準6項目、認定基準6項目、質基準15項目を満たしていることを確認した。

IV. 結論

第2版エイド試作版の表面妥当性と内容適切性について確認することができた。今後は、妊婦を対象としたフィールドテストを行い、実際にエイドを使用する妊婦の意見を反映し、意思決定エイドのさらなる改良を実施する必要があると考える。